

## オハイオ州 フィンドレー大学 奨学生レポート 4月レポート

### 「学会」

さて、長いと思っていた留學生活も、残すところあと一ヶ月となってしまいました。4月の終わりにある **Final Exam** に向けてラストスパートです。

**Final Exam** の前に、4月は大きなイベントがありました。現在、フィンドレー大学で日本語を教えていらっしゃる川村先生主導のもと、アメリカでの日本語教育に関する学会が二日間に渡り開催されました。私たち学生も何人かお手伝いをすると共に、その学会に参加させていただけることになりました。この学会には、オハイオ州やその周辺の州の高校・大学等で日本語を教えていらっしゃる先生や教授の方々が、参加されました。

今の時代の学習者の日本語に対するモチベーションや、日系企業等が現地のアメリカ人に求めている日本語能力、実際に日本に留学したアメリカ人がどのような過程を通して日本語を習得していくのかなど、様々なテーマが講演で取り上げられていました。私は、その中でも、日系企業が求めていることについての講演内容が非常に興味深く感じました。その内容は、日本語能力も大切ですが、やはり文化理解も大切だということでした。個人としての意識の強いアメリカと、企業の一員であるという意識の強い日本人の従業員とでは、仕事に取り組む姿勢も異なり、言語による問題よりも、価値観の違いによるコミュニケーションの難しさがあるようでした。これは、日本の英語教育にも言えることであり、日本の教育機関でも、言語と共に、文化の教育も大切にしなければならないのではないかと思いました。

今回の留學中、私は日本語教育に関する多くのワークショップや学会に参加させていただきました。大変貴重なこの経験を今後活かしていきたいと思えます。